

加圧600トンプレス機導入

伊吹機械、来年2月稼働

車部品金型試作能力底上げ

【大津】伊吹機械（滋賀県長浜市、伊吹宏一社長、0749・78・0344）は、加圧能力600トンのプレス機を導入して2019年2月に稼働する。自動車部品金型などの試験に使う特殊鋼を使った試し打ちに対応するなど金型を試作する能力を底上げし、主力である車部品金型の受注を拡大する。加圧能力は同社が持つプレス機として最大。総投資額は1億3000万円。24年3月期の売上高を現状比約60%増の5億円に高める。

伊吹機械が導入する品などを使って装置を金型の試し打ちに活用する。また、車部品材を動力源にフライホイール関連部品などに使用して衝撃に強い高張力鋼とされる、厚板に対する



新規プレス機を導入する本社工場

板（ハイテン）の試し打ちにも対応する。

本社工場に5台目のプレス機として設置する。従来は加圧能力350トンのプレス機が最大能力だったが、老朽化が進んでいた。加圧能力が高い試作用プレス機をそろえて、金型の納期を短縮する狙いもある。

同社は車部品向けが主力のプレス用金型メーカー。18年3月期の売上高は3億2000

万円。このうち7割が車部品向け。残り3割は住宅部材やスチール家具向け。今後は設備投資と合わせて人員増強も進め、5年後には従業員を現在より6人増の25人程度に拡充する考えだ。